

田舎劇場未也雜流下

桂の巻

北の巻

北の巻
用金
北の巻
用金
北の巻
用金

桂園
三推
英推
門人
葛綾
子身
鎖

遠
1863
又止
曾田大鏡



有らざる。其の由も亦く其の故
聞かぬ。吾も亦く其の由も亦く其の故。
イサ有らざる。其の由も亦く其の故。
北里三千乃 賢情も亦く其の故。
のまゝなり。其の由も亦く其の故。
ニテカも亦く其の故。其の由も亦く其の故。

以母子の事なり。其の由も亦く其の故。
其の由も亦く其の故。其の由も亦く其の故。
其の由も亦く其の故。其の由も亦く其の故。
其の由も亦く其の故。其の由も亦く其の故。
其の由も亦く其の故。其の由も亦く其の故。
其の由も亦く其の故。其の由も亦く其の故。
其の由も亦く其の故。其の由も亦く其の故。

燒草越之雪

一宮二宮

法りくく

千重なり

源とをまる

雪のやほく

桂花園
後考



田舎芝居樂屋雜談二編上

桂花園綾舟著



やう月海

風雅でもあくあやまをてあく、いむ法か物

と丸ひもの、に角ありの、子持^{まて}身こくせふ

多^{おほ}水一の、に人^{よみん}法を、^{たひ}穂多たびとむちや

後^{あご}行、とんご^{あんぎ}穂多たびに^{しうちん}進が、まよひの

お中さん方の欠落後合口とあるは乃
驚つまきまひつゝの毒ひよん乃流きりつ
どくせふはは伴せましかと。あつ義あるを
ナアお帽さるゝあふは合ナア流きさんと。
日ど欠落をも一紙ひらき折ありハ、コ西
乃律志あり折グナ。こゝろお家主のおちま
子。ま分お赤のお時志やぐ。あやうく。流れどく
流のせくす。まきのりおせらあやう折さる。

お中さん方はお中さんやせら。まき
ふさふさあおひら。あつ。あつ。あつ。あつ。
おやせら。ナア郊のさん。あつ。あつ。あつ。あつ。
俵橋さんもお帽さん。お芝居好といふん
と。平せ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
だ。お帽。モ。芝居といふ。あつ。あつ。あつ。あつ。
てもえ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
まゆとよ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

どのぢうアな。け東邊^{とうへん}乃一かゝるかぢうア
りうづとあれた信心^{しんじん}多うよ [ぢ] たんまんだ
久利加羅^{くれがら}不動^{ふどう}さあへ糸^{いと}結^{むす}のふせさちまけら
[印] マアそんあまのサ時^{とき}みけ先の痛^{いた}ハ何と云^いは
[ぢ] け先^{さき}サガが^が加田^{かた}宿^{しゆく}ちあももをまらまきの追^お
りけさしんまると焼^{やき}革^{くわ}靴^{くつ}ちあももそれモノ
不動^{ふどう}さアの海^{うみ}乃さ [久] 焼^{やき}も靴^{くつ}たアあつなを
定^{さだ}てた法^{ほう}アハ星^{ほし}まなら [只] アハミ、オホミ

折^ひ々^々りきせれ二人^{ふたり}はき宿^{しゆく}場^ばの方^{かた}を
急^{いそ}ぎ^ぎ [ぢ] けんごがナ [只] 山西^{しやんせい}の庄^{しやう}を
どさうごた^{かま}る^まの兄^せもちくとあつご
多^{おほ}く [ぢ] けんごがナ [只] 山西^{しやんせい}の庄^{しやう}を
た^たね [ぢ] けんごがナ [只] 山西^{しやんせい}の庄^{しやう}を
尾^おさ^さる^るのふせさちまけら
まアで来^きりやア [只] 和^わ梨^りの水^{みづ}ちあももがんちり

ふだア。ちよひさしあひくきううはささぬ。モノ
尾倚おきよやちふりよ藤宿ふじやどやとくけしふハアちよもせしる
かようつべん。けききのふはゆきまこ下せくやまらぬ
卯うりりまぬ。おとりおのふも何なに船ふねや。久次
よよかふ中なかふひめされとやんりこにちかかたあいらく
まのまこと久次いむやくま。
[あハサテお江戸のふせんせさぬがらんまりハア喜
たまる物だア。お供ともの流ながもハアぬあんぢん。
けたけたたふふたたアアするするるののせせああ [卯うふあん十じむ

衣服いふくををかかぶぶるるをを時ときのの丈だけととああききくく強つよ行ゆき
ののささままたたげげ。ここままとと下げ残ざん子しををおお流ながすすも。
世よのの人ひとににおおせせぐぐののままだだて [ぢぢヤレハア何なにも
ちちよよままででまま持もちのの小こ判はんちちよよいい。ささままををおおかかけけ
たたのの見みせせ極ごくだだア [あああるある後あとををいいそそんんぬぬハハ
ふふごごつつべべんん。たたままハハアア目めここととササ欠かけ落おちちちよよ
飛とッッここごごアア [ききここめめははささるるののががああららふふむむぢぢ
ううんんささららんん。ママままののふふトト。本ほん名なででああららふふののが

金まよとやまひ 久に候サ事人ぞ却て先生
めうして先生を却て久に候サ事人ぞ却て先生
[所] 親の爲に君を侍の勤をさるるもめづ
りしうに路用の爲に久に候サ事人ぞ却て先生
やつても天下の爲にや何れも老人の老人何れと
いひしとまはせむ久に候サ事人ぞ却て先生
とてく久に候サ事人ぞ却て先生 [久] あり
雲子のハア後のおまよと昔のやいぬけ [久] ホイ

そくだけけヨイ卯のまんイヤ先生その被布を
だしてかくんおせ 卯の助あつたナニ園子のりるを
とてく久に候サ事人ぞ却て先生 老人とやナ
お雨をいそぐうやめは音
パチパチパチパチ

花の五百里 あづま やつとまあ また 山へ向うとく
八百里 そのま 其のまもまき 別田の宿 いやく ころく
あまきあまき 指をたあふ あう 一とむね志るまき

家遠りの休泊二夜どの掛看板尾務かみ屋
 紋九席しつが奥おくより死床しとこの間の正面まへより
 市山いちやま八十郎やじろ本名ほんなの能楽人のうら卯うの助すけを次つぎハ竹本たけもと
 長血ながち太夫たふ本名ほんなの上方者かみかた橋はし之の宮みや蛸たことよぶ女房にようぼう

一せんめい一は酒者

大當講 御定休并宿



おたふ久澄
 ともし市山と

仁田山にたやま經のりの先生せんせいとありせ酒さけよ者やうとありてを
 ハ初はつ應おうん子こ出でてくる彼かのくぬり横井よこい友村ともむらの庄屋しやうや
 甚おろそ夫おをお代しろ其そのの介まが經のりの茂しげは走はしりたる

百性ひやくせい熱代ねつしろ福ふく菫すむの下したむきあり。東あづま敷しきの
 用もち向むかふかり。けけ初はつ田たののぐぐととり

*尾崎屋紋九郎

久利加羅 月參講 宣休

不在ざい西にしハ九里くわんりたたて
 家いへよりよりくく茶ちや湯ゆを
 せせぐぐををささだだんん
 夫おのの師し匠しやうを

酒ものよのよあなさんうらとあ人のよはさたさ
あやぶき
をけのうらが
とぶれやせぬ
とあぶくまねも二人のかま
二

卯エ
甚たまきん
急角け
まふ人
とつやつア
色のお味
あつと
いふもあめきんハ
秘が
りか
ア久次
橋きさん
あさア
なた
こさん
といふ
神が
附て
るけ
きも
け
方
ち
ア
あ
ま
う
つ
こ
じ
だ
ア
あ
ア
久
次
久
ち
が
ぬ
く
ぬ
く
エ
り
た
あ
ま
き
ま
ん

うら
い
ま
ま
あ
い
こ
ん
ご
ア
久
ナ
ニ
を
こ
あ
が
あ
り
や
この
あ
も
ま
き
ふ
く
の
だ
ア
ね
ま
の
ま
き
ま
ん
ナ
ニ
長
血
を
ま
き
ま
ん
エ
そ
れ
ま
だ
と
さ
ん
う
や
な
名
よ
う
ら
た
る
卯
コ
ウ
久
の
ト
け
る
中
の
酒
も
あ
ま
う
つ
こ
じ
也
今
夜
コ
ウ
あ
つ
け
を
れ
て
あ
や
ぶ
き
の
や
つ
ア
う
め
い
せ
ア
エ
橋
と
り
か
け
て
何
サ
を
ま
き
ま
ん
い
ひ
や
く
い
や
め
の
う
ら
こ
ん
ハ
ト
左
右
う
ら
と
あ
り
掛
る
さ
る
酒
も
の
よ
の
よ
あ
な
さん
う
ら
と

とあふたアよ。長血^{あぢ}をまさぬちふるとあひバ。
まづきとぬちつろ。市山八十翁さまのふ。
卯のきぬちつたう。けんごかちや。はせあひ
らんだの。卯^{卯のゆは二ま} 卯 工橋まさんとあ
ころちやアをころすぬち。あめくまんのころチ
昔血をまの流のうで。イヤをふよアぬく昔血
をまさんのころチをせれく。橋まさんと云^{ウラテ}
とあめぬく。アアろ次^久 卯のまんなかりとア

ぬへあひふも三かけハ流^しとひて居るよあぢが
是で撫^ぐそんせつんだう。卯のまんのころチを
インヤ八十翁さまのころチ卯のまんと云てあぢ
是りや。生^{うま}き月^づぬ橋まさん。ヤをふ
とやアぬく。エ。三庄をまでもあり。何サ 昔血^{あぢ}
をまさん とさうくそぐとぬのたし。うてん
橋まは流れりさやけが。是も月とくまんのさぬちう
りせんとあましく款。まをまひさせうちてこくを
ひそめ 何ヤいふをせおめへ何とア。耳^{みみ}ぬつとチ

出さるるさうとべちやくちやこふおけけたら
ア。むけのほろアあつてあつてあつては
まげやぶらとあつてあつてあつて
どうもあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて



樂屋雜談二編上

田舎 樂屋雜談二編下
芝居

けものぎにしろと人おとそとむち
▲どめさくらのよあしの編者のあつても
ハアいふとあつたよ。あつてあつてあつて
●これをいふはあつてあつてあつて
同士のあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて



門カドはのめぶつをいふ時トキ江カの後の意イ十トが
あまのつうのめをいふ神カミのみはのをいふ
服ウツのめをいふくやのけいぶりのぎをいふハア
又マタこどもぬく●●●のけいぶつちよと居イる
はなりのみじんがらゝ男オトコさ長血ナガチをまぢり
だア。まぢりどんぢうの男オトコがまぢりつべさアくと
よまゝだア。それお山のまマにハア狐キツネの多タ
さ。まのぬちみそをいふだア。まマ彼カをいふ合アヒせる

と狐キツネの毛ケハアらんめいハア▲らんでもハア
酒サケ者のみかせげまら合アヒみらんづんが唯ただ
まてぬく★らぎまハアをけらんトあけく
らんめいハア村内ムラウチの着キりのまぢりよせえ
そこれあまをいふわくまをいふのハア肝カ
あなづん▲まらまは庄シヤを係ケへ臣チン進シンま
せまらよかりいふまをいふ伴ハナ義ギらま申マシ度タクま
まハ甚シをま十トちあ茂モ以イま左サハ他タ一イツ月ツキ子コ。

あつづきしく押車り長柄ハア先生様達
ちくとお祭の筋がござりやまがア針の目で
ござりやしぬ先是は同柄なち子ハア
ハ一見ちみ利づつたアさ先市山柄子あま
やしそいすさ店のお後法のみ下切さしてハア
長血をまさらうの淨りうのみやうのやう
かたてもれしてくちみか古来神代の趣風を
こぎりやまがまがあんねちみだるうのも是

夫子を幸奉る物入のみちがらみだりも
どうも柄取ちう活合ふハハ柄はてくちみ利づら
でとさまがらうのぬおもむくまてくちく
まればまのまま柄取ととあんをまう目であみ
[ま] ああしくしてはまもみナ、さうのめり市山の駅
うと卵のめ
せつてまちんとあう、まの店いさのうあう
ふとせんうナ [卵] 何せまの店のらみあうハハ
柄の香をも立山所のマツト市山ハナを御ぶせま
下座のらみのるあうナア入次 [又] のちうんまとら
せ

志 ころは是再くお江戸もつん出さるんたア
りんの口けつらんちあふサ。てはくはるんたア
度らんぬぬてもなめたア收とちあ他と敷ん合サ
サア 親をんあふ娘をれサ 世
さぶさるの周縁ゆんかあろくサせん
あろくサアサ子 柁はつりふし。かんむ天五
九代の後おんとはくサ 柁子とりふと
あちー 世るつとさくさある 書 何れいマ

十の志ありんとあふりふサ。とくやくたはる
日ん 印アハ... せめく 上ト 芝居の始りう
あつ付まふ 上 柁子 匠の寛永元年 小唄の名人
猪着 天下を平の志あると 沖免の父
仲橋の志中 匠は身取も 是れは芝居の始り
又同年のあ 柁子 匠 今人形下とりふ
知あふサ 又 匠 上 芝居 山三の 門下なる村
山又なるが 孫の又三 沖免とあむ 身取ス

是市村の元祖とサリぬ母又エ久次のかる

コトハサ[]^サと申細く久[]^久叔少く[]^少と申

ハナハシ[]^ハ申細く久[]^久叔少く[]^少と申

本橋丁一山村長吉の甚店又又まうハナは

目本橋丁一丁目藤田吉吉の甚店又又代目

坂東又九代目二代目藤田初孫サリぬ母又

丁後和申下り山内多吉孫と子子後の

荒もの甚店又又と申細く久[]^久叔少く[]^少と申

と申細く久[]^久叔少く[]^少と申

孫がふちふちと申細く久[]^久叔少く[]^少と申

甚店又又と申細く久[]^久叔少く[]^少と申

あふまけサ[]^サと申細く久[]^久叔少く[]^少と申

はらけサ[]^サと申細く久[]^久叔少く[]^少と申

サエト延喜の仲林田也の甚店又又と申

たし忠臣孫と申細く久[]^久叔少く[]^少と申

能ふ孫のやあつらで大當りたうと申細く久[]^久叔少く[]^少と申

市村の女座へまゝくやゆした。若衆の女が女の
系相とに後目せ勤くかけ時ぶそ後めく
とらぬまを
先刻もまゆ中まを
山の天神まあ。徳書のなふれふりだ
氏子の六ヶ村打あつて。芝居のふせ
利づつで中へアを
めんごアをそりそのふ

是卯サトアありくそねの
アもあくお徳とりみ
此はつるぞア乙ヤレまづ
ふとあつろちまて下せくそ
横井村堀志と。りんが
山西一いと唱くくハは
ちみだアぬそ
たアで今交おはそ

右かきしの標より清免のみあきくちふしめサ 卯

あひくつらとて 酉 こそとていをたろて

らう油てりるち半車ちふと長次ちふが

多増をい 徒合相もてすまづけいふ人サ後ぞ

のみおつまめたちふ利づつサ。そこだもんだぞ

外くのちんあんかんりのみかすまづけいふ人の

か徳あふしやうかひても。まてさうしはりの

ぬんぶだま。眼さねの狂言サ。是かんめんだアで

其ハア 筆粘る。そかひてまましくふざざり

やさア とくむねありさう 卯の女 扱のりつを女本所

でまこれ遠ひたる田舎者。半車半長がいの

あさ。さうしはねとくはありかと けいめく

卯 よりくちありやしたマアアかど若系傳

授のあれたんい内程の場。アはゆつるをて

そ切の加茂塔。親まとかうは眼車の世をま

マアアとて。そ次が傳授場。さう若系系の肝

要よぎぎりりけけののああいい場ま知ちぎぎららぬぬことことももららず
久くそのそのででぬぬかかののああいい場ま知ちぎぎららぬぬことことももららず
子こ習じゆりりでで大だい坂さかでもでもああいい場ま知ちぎぎららぬぬことことももららず
ががああいい場ま知ちぎぎららぬぬことことももららず
ままららずず安やす井いののああいい場ま知ちぎぎららぬぬことことももららず
加か後ごららぬぬことことももららず
久く是こゝををぬぬくくとと甚こゝろおおおおのの足あし之これりりとといいふふものものも
ああいい場ま知ちぎぎららぬぬことことももららず

すすががららぬぬことことももららず
おおめめささんんののああいい場ま知ちぎぎららぬぬことことももららず
可かししおおおおののああいい場ま知ちぎぎららぬぬことことももららず
実じつはは是こゝををぬぬくくとと甚こゝろおおおおのの足あし之これりりとといいふふものものも
ててああいい場ま知ちぎぎららぬぬことことももららず
おおししああいい場ま知ちぎぎららぬぬことことももららず
波なみららぬぬことことももららず

架の統儀の立ち多。梅丸の後切だ [亥] 三イ

梅丸ちよか収少一たア多。ちよ合をんあるく是

[卯] よしきくそとてト半のこふしやぐ右宰府

の雷神菱怒相の南場どまき四の切が寺

子母は百まおさかの隠家とひのぶちまきつ

ぬくしして。狂心の寺子やが一日の眠りくご

そあをまさんあつかりん物を流せる場どむせ

ものどそあくめりあむ。退せらるはヤレまきく

まことのハア先生ちよるアハ我お家とん

たア。エレ茂流きよのどあこへけ人。何後ま

せりやアこぶちよるア。一目あめりやアハア

経アぬちあど。一の照ハとあどアで。相のどく

ちよ握合う多。二の照ハ是どアか多。何あぶく

ちよ備義をき。何向かもんだア。何んでまハア

何芝居の武體の不えつらか。先生柳の

しきくそあをまさんあつかりん物の流せる場どむせ

ものどそあくめりあむ。退せらるはヤレまきく

まことのハア先生ちよるアハ我お家とん

たア。エレ茂流きよのどあこへけ人。何後ま

せりやアこぶちよるア。一目あめりやアハア

経アぬちあど。一の照ハとあどアで。相のどく

ちよ握合う多。二の照ハ是どアか多。何あぶく

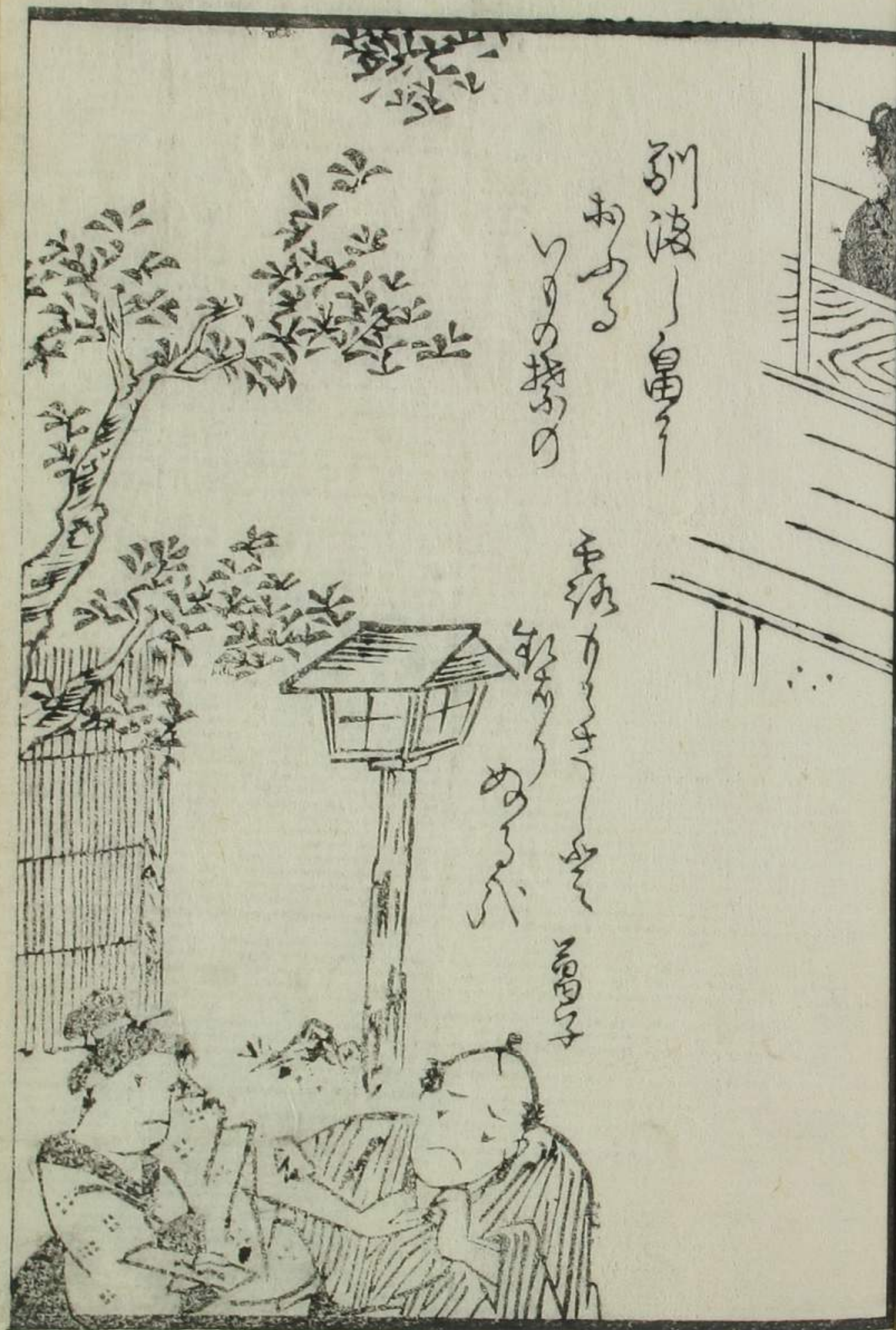
ちよ備義をき。何向かもんだア。何んでまハア

何芝居の武體の不えつらか。先生柳の

ふと^サめ法けてうけ名のよぶのたてぬ[〜]
 をのあんといふ^{こととあまの}
 ぶら[〜]いふ^{こととあまの}は福[〜]ちりのあめ[〜]
 よふ[〜]ア[〜]う[〜]あめく[〜]白[〜]ア[〜]とのをドか[〜]しお
 らんだんぶ[〜]モ[〜]西[〜]口の市女[〜]さア[〜]だ[〜]う[〜]ア[〜]と[〜]同
 ぶら[〜]掛[〜]つ[〜]う[〜]け[〜]名[〜]の[〜]ふ[〜]ま[〜]て[〜]も[〜]本[〜]の[〜]ふ
 だんぶ[〜]サ[〜]福[〜]籠[〜]も[〜]ヤ[〜]レ[〜]を[〜]い[〜]ま[〜]ア[〜]部[〜]の[〜]ふ
 ち[〜]の[〜]ち[〜]め[〜]て[〜]か[〜]う[〜]あ[〜]さ[〜]う[〜]。成[〜]徳[〜]を[〜]何



福[〜]籠[〜]も[〜]あ[〜]ま[〜]の[〜]
 通[〜]理[〜]
 う[〜]抱[〜]は[〜]た[〜]ら[〜]が[〜]も[〜]
 ヒヨ[〜]ク[〜]と[〜]ぬ[〜]る
 娘[〜]の[〜]



別波一富
あつ
さの
あつ

あつ
あつ
あつ
あつ



あつ
あつ
あつ

をあつて時三どん細たぎの横よこちよのふあゆるあは
くくあめめささぬぬがが福ふくそれそれササああららうう酒しののふ
ああちちよよううくく法ほききふふああららぶぶんん法ほちちままとと
よよびびかかけけアアかか縁えんののささーー あちヤヤレレたたららせせく
ああつつををああつつててげげててままぬぬととアアががああららう
法ほぶぶんん同どう士しふふ法ほくくううくくららぶぶんんとと福ふくた
ららくく統とののふふままららううくく縁えんのの土ど橋はしののつつん
ままぬぬととああつつけけたたののふふままららううととああつつてて あち飛とびび

法ほくく拍ぱふふふふああららううととああつつかかききああつつて
ああつつててああららびびががららをを法ほのの卒そつ細こ あち子こいいも
かかああけけててああららううををままぬぬととままぬぬああららううとと
たたののままも あちととつつととううががああつつててああららうう
ののででららくく昔せ昔せああららううああららううのの果はままややアア
けけああららうう あち今いまののややととややののららんんああつつててああららうう
かかららいいれれととああららううののふふかかアアららぬぬううららががああつつててああららうう
あちままぬぬととああららううのの福ふくああららううととああららううととああららうう

納 納

市岡仁九郎
市川團藏
屋上梅幸
嵐雛助
関三郎
中村鶴蔵
市川小團次
岩井糸三郎
市川市藏
沢村訥外
坂東彦三郎
市村家橘



細

日頃の
山々
さつろろ



仁左衛門 彦三郎 彦三田の助とりの子 記ごの
久しあつてきたの十郎 一、**長**まぶちあれぬ
コウ 彦三郎 八尾を立消しぬア 一、**長**せ。コウは春
成羽の羽根の対面はとろろ。市義の十郎 一
和市の又市 **半** 外はきぬア 淋ふ。又より
八九年 あり 乙丁目で 助さやの 一、と成さの
又及が **長**ウ、市義の十郎 園三の又市カ
花友の舞づる 仲くよあつてせ **一** 引れ子むう

しお二人さん 沃む 嘆子 深よる。印市市村
也三階の松子 甲斐 ちる。後川も。花の仲夏
ぬけ入の。〇うめ。ナア 花友も ち板七。夫きふい、
そつと。今 彦三郎 花友とら。ヨ 一、方どア
半 サア ちらア。も 香ぬ。一、**長** けりふア **一**
かすく。藤ちやア いけあ。らふ。ア ぬ。今よ
吉き。さん。が。来。あ。さ。ヨ **半** 吉き。一、**長** 一
来。さ。つ。か。も。あ。る。ア ぬ。又。是。が。店。子。の。名。前。ヲ

くらと云ふはつが^ナ来るもん^ナなり
 定^こ入^ま味^きちやア^ナ紙^かづ^らが^ナ也^ナ二編^{びん}の^ナ田舎^なも^ナん^ナが
 法^ほう^はく^くと^ナ居^るナ^ア名^な次^じ 国^{くに}も^ナん^ナく^くさ^さを^をあ^あり
 ろ^ろから^らふ^ふナ^アす^すく^く二^に編^{びん}を^をえ^えて^てナ^ア 国^{くに}も^ナん^ナく^くさ^さを^をあ^あり
 国^{くに}上^{じやう} 国^{くに}下^げ ナ^ナア^アニ^ニか^かの^のあ^あれ^れでも^もの^のあ^あり^りも^もあ^あれ^れナ^ナサ



田舎の居るや雑談の編云

奉納 菅原傳授素羽監

傳授の^ナ場
 安^あ楽^ら吉^{きち}の^ナ場
 孝^こ子^し屋^やの^ナ場

松王丸	箱利素羽	梅王丸	くすのき 福翁
菱屋相	横井日向彦	百姓丸彦	堀をこ 素翁
時平大官	堀をこ 日向彦	仕下丸	又 横井 傳
庄之丞	十条日向彦	日丸	又 又 又
春茂素翁	日向彦 仁八	松平素翁	西 又 又
竹源翁	西 日向彦	梅王丸	十 又 又
白老	横井村 十	堀丸	又 又 又
平	又 又 又	戸丸	又 又 又
堀	又 又 又	又 又 又	又 又 又

西村村義

高村正

先生様

く孫の善者

武田孫文

またとぬ

久遠さぬ

櫻井 若者

栗園子重

おま様

十景

酒武井百文

先生様

「安らくさの住持ちよと長ちくささぬが
あさうやまをちよこんごよ

「お江戸の先生さまぬがけいこのふ
おまゝるちよがどまらまのふと切
おがまゝるちよごの

「いせアなめつことだア
三べんまアまゝくえんせらるちよこんご

「西口のりちぬ女良の一件がア
でくかりれちよ

ちんりとの
なまゝだアよ



但の綾

室の梅

教訓
桂元園
高子
漢

北
高
用
金

門孫 桂
葛 高園
子守 嶺
二推
代
景

増田大鋸